

国際政治

9

国際政治学の体系

日本国際政治学会編

米英国際政治学体系への一批判 ——国際政治におけるパワーの意義	芳川俊憲
アメリカ国際政治学の方法論的系譜 ——シューマンを中心として	長井信一
国際政治学の理論構成を繞る若干の問題 ——E・H・カーを中心として	村松清二郎
パワー・ポリティクス ——モーゲンソーを中心として	伊藤皓文
国際政治学における数学的方法 ——ゲーム理論を中心として	関寛治
国際政治の理論と体系	畑田重夫
<hr/>	
<書評>	
スナイダー・ブルック・セピン共著 『国際政治研究法としてのデシジョン・メイキング』	中村貞子
ドイッチュ著『民主主義と社会通信論』	蠟山道雄
ファイフィルド著『東南アジアの外交』	明石陽至
朝日新聞調査研究室編『東南アジア諸国の現情勢』	松野尾勝
百々巳之助著 『アフリカの政治』、『植民地に於ける議会政治の諸問題』	東条君枝
ガーソフ著『核時代におけるソ連戦略』	完倉寿郎
<hr/>	
日本における国際政治学の発達	川田侃、二宮三郎
アメリカにおける国際政治学界の現状	谷川栄彦
イギリスにおける国際政治学の現状	内山正熊
フランスにおける国際政治学	武者小路公秀
ソ連邦における国際政治学（外交史・国際関係）学界の展望	船木庸行

国際政治学に関する主要外国文献

1959年刊